

宿泊予約は早めに、旭山動物園での懇親会も！ 第9回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会のご案内

2025年10月23日（木）～25日（土）の3日間、北海道・旭川市で第9回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会が開催されます。これについて、会長である旭川医科大学病院リハビリテーション科教授の大田哲生先生にお話をうかがいました。

開催概要

第9回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会

テーマ：リハビリテーション医学の明日に向かって～Let's unite toward our dreams～

会 期：2025年10月23日（木）～25日（土）

会 場：旭川市民文化会館／アートホテル旭川

第9回秋季学術集会の会長を務めるのは旭川医科大学病院リハビリテーション科教授の大田哲生先生です。旭川で大規模なリハビリテーション医学・医療関連学会が開催されるのは初めてだそうです。「旭川は観光地で駅前にはホテルも多く、早めに予約をしていただければ宿泊には困らないでしょう。」と期待を寄せます。10月中旬の旭川は寒い日もありますが、温暖化の影響で例年ほどは厳しくなく、雨も少ないそうです。

多職種で語り合い、考える学術集会に

今回のテーマは「リハビリテーション医学の明日に向かって～Let's unite toward our dreams～」です。大田先生は「リハビリテーション医療は多職種が同じ方向を向いて『団結（unite）』してこそ最大の力を発揮します。」と話します。また、uniteには「合わせ持つ」「兼ね備える」という意味もあり、リハビリテーション科医が複数の分野の知識や技術を身につける場にもしてほしいとの願いが込められています。

6月の第62回学術集会でも、大田先生は「みんなで考えるリハビリテーション医療の明日」というテーマで講演し、2042年に高齢者数がピークを迎えることや、認知症・脳卒中・心疾患・がんなど加齢に伴う主要疾患への対応の重要性を語りました。そしてまた、健康寿命と平均寿命の差を縮めること、

そして地方でのチーム医療を担う人的資源不足の問題にも触れ、「これからのリハビリテーション医療をどのように維持・発展させるかを、皆で考えるきっかけにしたい。」と語りました。

本音で語り合える場に、若い医師も手に職を

秋季学術集会では、メディカルスタッフとドクターが「本音で語り合う」セッションを計画中だそうです。大田先生は、「フランクに、時には“チクリ”と言い合える場に、お互いの本音を知る機会にしたいです。さらにハンズオンセミナーも多数用意し、検査技術を自分の手で確かめ、手に職をつける機会を提供したいです。」と計画の一部を説明してくださいました。

楽しい企画として大田先生は、「10月24日の夜には旭山動物園を会場に懇親会を実施する予定です。屋内外に料理を配置し、夜の動物園の中で食事を楽しんでもらう趣向です。夜行性の動物たち、特にオオカミなどは元気に動き回るでしょう。」と笑顔で説明してくださいました。

ジェンダー論で有名な東京大学・瀬地山角教授が講演

大田先生は、「私が男女共同参画委員会の委員でもあり、今回はジェンダーの問題も積極的に取り上げ

宿泊予約は早めに、旭山動物園での懇親会も！ 第9回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会のご案内



会長の大田哲生先生



第9回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会ポスター



旭川医科大学病院リハビリテーション部スタッフ

る予定です。文化講演として、ジェンダー論の第一人者である瀬地山角先生（東京大学教授）を招き、第1会場でご講演いただいた後、同会場で男女共同参画委員会シンポジウムを開催し、大規模に議論を展開したいと思います。北海道は男女共同参画の分野でやや遅れている面もあるからこそ、議論を深めたいです。」と大田先生は説明してくださいました。

大田先生はもともと外科志望でしたが、医学部6年のときに慶應義塾大学月が瀬リハビリテーションセンターで失語症患者と出会ったことが転機になっ

たそうです。「大脳の機能障害による症状に出会ったのが初めてであり、その中のひとつである失語症を治療しているのがリハビリテーション科医だと知り、これこそ超高齢社会に必要な医療分野だと感じました。知らない世界に目を向けるのはとても刺激になります。ぜひ多くの若い先生方に参加してもらい、旭川や道北の自然を感じながら、リハビリテーション医学・医療を推進する力を養っていただければ嬉しいです。」と最後に医学会会員に呼びかけてくださいました。（文責：広報委員会）